

第1章

保存版 OS 事典

村井 和夫

● 選定の方針

原則ローカルのCPUに単独でインストールして機動作する完結したソフトウェアをOSの対象として選びました。仮想マシンやクラウドOS環境などは基本的には除外しますが、一部プログラム走行環境やCloud OSと呼ばれるものも対象としています。

現在のCPU/OSの考え方に大きな影響を与えた、歴史的なOSは、現存しなくても積極的に紹介しています。

基本的に、オープンソース・ベースのものを選びましたが、クローズドな商用システムでも、普及率が高い、話題になった、歴史的意義があるなど、知名度が高いOSは、オープンソースと関係なくとも紹介しています。

大きく以下に分類します。

- ① UNIX AT&T系
- ② UNIX BSD系

- ③ Linux Debian系
- ④ Linux RedHat系
- ⑤ Linux Slackware系&その他
- ⑥ その他OS
- ⑦ IoT & 組み込みOS
- ⑧ 携帯端末OS
- ⑨ ロボット&ドローンOS
- ⑩ 企業版OS
- ⑪ Cloud OS

● 注意点

解説は基本的には、各OSのウェブ・サイトからの情報を参考・引用しています。開発者・権利者については一部明記していない場合があります。OSSとある場合はオープンソース・ソフトウェアを意味します。

むらい・かずお

1 UNIX AT&T系

1-1 UNIX (v1-v6 /v7/32V)

開発者・権利者：AT&T, Bell Lab

UNIXは、1971年にAT&T Bell研究所でPDP-11用に最初に開発され、1973年にはC言語で書き直されました。最新機能を持つOSを、ソース・レベルで大学や研究機関などに安価に配布したことで、

解説書

Lions' Commentary on UNIX on 6th edition with source code

が書かれるなど、教育だけでなく、実用に広く使われるようになりました。BSD版のUNIXは、主にこのBell研のバージョンをもとに、カリフォルニア大学バークレー校(UCB)で開発されました。現在のUNIX/Linux系のOSの基礎となっただけでなく、以降のOSに多大な影響を与えました。